

**令和6年度 尚絅大学附属こども園 学校評価**  
**(評価対象年度：令和6年度)**

# 1 学校（自己）評価 令和6年度 尚絅大学附属こども園 学校評価

**本園の教育目標** 附属こども園の理念・使命・目的に基づき、就学までに次のような子どもを育成することを目標として教育・保育を行う  
 (1) 恵まれた自然環境の中で、いきいきと遊ぶ子ども (2) すなおに自分を表現する子ども  
 (3) 人とのかかわりの中で思いやりや親しみをもつ子ども (4) 心豊かで、創造性のある子ども  
 (5) 遊びを工夫し、進んで行動する子ども

**令和6年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%**

評価はABCの3段階とします。以下の2～6頁のI～Vの「評価」で、A評価が2/3以上ある場合がA評価を、2/3以上AまたはB評価がある場合を「B」ランク、それ以外を「C」ランクとします。

	評価の観点	評価	成果(丸数字)及び課題(□)
1	子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実	A	①園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができた。特に、本園の自然環境を生かした教育保育活動と遊びの中に組み込まれている「食に関する活動」は、試食体験やバザーでの収穫野菜の保護者への販売等、保護者から高い評価を得た。 ②DX化の推進では、ICT支援システム「コドモン」導入2年目となり、園児の出欠管理やバス運行状況、お知らせ、写真による怪我の状況報告などの利用を通して、保護者とのコミュニケーションが以前より円滑になった。 ③年長児が見通しをもって入学できるように、ひらがな遊びや武蔵ヶ丘北小学校1年生と年長児の交流を実施した。 ■「コドモン」の利用については、研修を通して、便利で豊富な機能を業務省力化や保育の質向上にさらに役立てることができるようになっていく必要がある。 ■菊陽町の幼保等と小学校の連携アプローチ計画が作成できたこともあり、小学校との交流など、次年度は早目に計画を立て持続的に実施していく。
2	子育て支援の充実	A	①在園児保護者への支援は、「子育て相談会」「お誕生会」「親と子のつどい」などが好評だった。特に昨年度までの「おしゃべり広場」を発展させた「おしゃべりカフェ」は好評だった。 ②子育て支援ルーム「どんぐり」の活動では、制作やリトミック、知育ヨガ、講話など様々な活動を準備し、参加者からはとても好評だった。 ■特別な支援を要する園児と援助・配慮を必要とする保護者に対して、今後とも療育施設との連携や近隣市町担当課等との連携を推進する。 ■園児の安全を最優先に考え、研修や講話、会議などを通して事故防止の徹底を図っていく。
3	次世代保育者の育成	A	①これまでの短期大学部だけでなく大学（子ども教育学部）との実習連絡会などを通して実習生の情報共有や「実習のしおり」を通して実習の指導内容の共通理解に努め、実習生にとって充実した教育実習につながったと考える。 ②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。 ③高校生、幼児教育学科、大学生の教育実習、自主自習だけでなく、中学生の保育体験なども積極的に受け入れ、附属園としての役割を果たすことができたと考える。 ■令和7年度の短期大学部入学生が減少し、実習の受け入れ態勢の修正を行いながら、今後園内研修や園外研修、園内の教育保育活動を通して積極的に連携を深めていきたい。 ■教職員が平日の研修に参加する際のフォローづくり、また振替休日や年休をとりやすくするためのフォローが課題である。
4	自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保	A	①令和6年度の入園希望者の状況では前年度の希望者数とほぼ変わらず、収支の均衡はとることができた。令和6年度スタート時は、258名だったが、途中入園者が多く、最終的には284名に達した。令和7年度のスタート時は0歳児が少ないものの令和6年度と同程度の見込みであるが、途中入園の希望者も有り、今年度並みまでに達するのではないかと予想している。 ②昨年度、保護者に「園児募集に関するアンケート」をとり、その結果をもとに職員全員で方策を協議し、今年度以降の対策を立て取り組んだ。 ③尚絅学園HP「お知らせ欄」等で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を積極的に行った。 ■入園願書受付が令和7年度園児募集から、それ以前と比べて1か月早くなっているため、ポスターの広域配布やホームページの利用を通して早めに園児募集の情報を示していく。 ■「園児募集に関するアンケート」「学校評価(保護者)」の結果を生かし、未就学の保護者に対して魅力ある園運営を進め、積極的に園の魅力をアピールしていきたい。

# 1 学校（自己）評価 令和6年度 尚絢大学附属こども園 学校評価

令和6年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(□)
I 子どもの健やかな成長のための教育・保育の充実	1尚絢らしさを生かした、質の高い教育・保育の充実と、自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の育成	(1)クリエイティブな教育・保育の実践と改善(幼児棟)	「全体的な計画」「2週の計画」「各クラスの計画」等をもとに、豊かな自然体験や食育等で心身ともに健やかな園児達を育てる教育・保育の推進、および小学校との交流を学期に1回実施しての幼保等・小の連携の促進。(幼児棟)	A	①日頃の環境整備・補修に努め、園の環境を活用し園児の発達や興味、季節等を配慮して教育・保育を計画的かつ創造的に実践することができた。 ②園で採れた野菜や果物を給食で使ったり、試食体験をしたり、自分たちで給食に収穫した野菜を盛りつけたり家に持ち帰り家庭で食べたりするなど、園の自然と食を結び付ける活動を積極的に行った。また今年度は年長児が収穫した大根やネギを保護者が実施するバザーで保護者に販売する活動を行った。 ③年長児が見通しをもって入学できるように、武蔵ヶ丘北小学校1年生と年長児の交流を1月に実施したり講師をお呼びしてのひらがな遊びを実施したりした。 ■新たに行った保護者への野菜販売は年度途中からの企画実践だった。また小学校を見据えての上記の活動はともに3学期1度だけだった。菊陽町の幼保等と小学校の連携アプローチ計画が作成できたこともあり、次年度は早目に計画を立て持続的に実施していく。
		(2)要領に示された「10の姿」の方向に育つ園児達	質の高い教育・保育や安心安全な環境で伸び伸びと遊ぶ園児達の姿に対して、学校評価保護者アンケートにおいて、関連する設問の「満足」の比率が90%以上を達成	A	①10の姿全てにおいて95%を超えており、質の高い教育・保育や安心安全な環境で伸び伸びと遊ぶ園児達の姿に近付けたと考える。 ■相対的に低い項目について、園外・園内研修を通して、課題を共有し、指導力を高めたり園としての対策をとったりしていく。
		(3)教育・保育におけるDX化の推進	ICTシステム「コドモン」によるドキュメンテーション機能等の活用を通じた業務の効率化、保護者とのコミュニケーションツールとしてのさらなる活用。	B	①「コドモン」のおかげで保護者との出欠や園からのお知らせなどの連絡の効率化が進み、プールの出欠の有無や、一時預かりの申し込み状況のお知らせ、リアルタイムでのバスの位置の把握、ケガの状況を写真でお知らせなど少しずつ進んでいる。 ②「コドモン」でのお知らせが多く見づらいという意見があり、給食の献立表等「資料室」の欄を使って見やすくなるように整理した。 ■保育への取り入れ方も研修を実施しており、ドキュメンテーション機能を活用しての業務改善、保護者へのお知らせの検討をしているところである。
		(4)園児の安全性を高める体制づくりと、教職員の業務効率化・負担軽減の実現	年休や出張等で教職員が不在の場合、園児の安全性の低下を防ぐためのフォロー体制づくり、保育者・補充教職員・パート保育者等の確保と、幼児棟教職員の時間外勤務時間数月平均10時間以内の実現	A	①園児の安全性の確保を第一に考え、幼児棟と保育棟で連携を取りながら、できる限り見通しをもって臨機応変にフォロー体制をつくっている。 ■幼児棟教職員の時間外勤務時間数は月平均9.1時間となった。園務分掌の内容を見直したり指導計画等の精選やDX化の推進を含め効率的な時間の使い方を検討したりしながら、削減していきたい。
2豊かな人的・物的環境を通じた、尚絢らしい家庭的で温かい愛情に満ちた保育の充実	(1)一人一人に応じた温かい保育(保育棟)	(1)一人一人に応じた温かい保育(保育棟)	一人一人に応じて「個人別月間指導計画」や「保育日誌」等を活用して行う保育	A	①細やかな個人別月間指導計画を立て、保護者と連携を図っている。「保育日誌」等を活用し、保育教諭間の連携がとれるようにし、細やかな保育や怪我や病気、安全面に関する対応を行っている。 ■今後とも一人ひとりが大切に育てられるために、保育をPDCAサイクルに則り修正発展させていく。
		(2)要領に示された「5つの領域・3つの発達」の方向に育つ園児達	家庭的で温かい愛情に満ちた安心安全な保育に対して、学校評価保護者アンケートにおいて、関連する設問の「満足」の比率が90%以上を達成	A	①「5つの領域・3つの発達」の方向に育っていると評価している割合は95%を超えており、温かい声かけや愛情あふれる接し方を教職員が意識して実践できていると考える。
		(3)園児の安全性を高めるための保育者の確保	年休や出張等で教職員が不在の場合や、早朝や午後保育時に教職員が不足する場合の園児の安全性を高めるためのフォロー体制づくり、保育者・補充教職員・パート保育者等の確保	A	①園児の安全性の確保を第一に考え、時間帯ごとの園児数と勤務者数の状況を調査したり、足りない時間帯を中心に幼児棟と保育棟で連携を取りながら、できる限り見通しをもって臨機応変にフォロー体制をつくっている。 ■欠員が出たときの職員の確保と臨機応変なフォロー体制づくりを今後も行っていく。
		(4)教職員の共通理解と資質の向上	職員会議や園内研修を年間に10回以上開催	A 2	①月1回を目途として、着実に実施できている。12回実施できた。 ■今後は今以上に意図的・計画的な保育者の創造性や学びの成果を生かす取組が望まれる。またコドモンの機能拡大の研修も積極的に取り入れていく。

# 1 学校（自己）評価 令和6年度 尚絢大学附属こども園 学校評価

令和6年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。  
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(□)
II 子育て支援の充実	1 保護者・行政・療育施設等と連携した在園児保護者の子育て支援の充実	(1) 園児の命と安全を守るための、教職員の研修・保護者支援のための「子育て相談会」・関係機関等との連携・協力	子育てに不安や困り感をおもちの保護者、特別な支援を必要とする園児とその保護者、DVや児童虐待事案等に対して、教職員研修の実施・「子育て相談会」等の年間10回以上開催 行政機関・小学校・療育施設・児童相談所・警察等との連携・協力による支援	A	①「子育て相談会」は年間10回行う予定であったが、実際は16回実施した。 ②「お誕生会」「親と子のつどい」「おしゃべりカフェ」などを通して在園児の子育て支援を図ることができた。特に昨年度までの「おしゃべり広場」を発展させた「おしゃべりカフェ」は好評だった。 ③年少以上の保護者を対象に、こども教育学部の先生等を講師として、「子育て講話」を行い、多数の保護者の方が参加され、とても好評だった。 ■関係機関とさらに連携を深めながら家庭教育への支援に努めたい。
		(2) 保護者の安心感と園児の安全性の向上	教職員の確保を通じて、直近5年間の日本スポーツ振興センターへの申請件数平均8件以内、園児数に占める割合3%以内を実現	A	①昨年度までの5年間の平均は12件であったが、今年度の申請件数は5件であった。安全点検や安全に配慮した保育に努めたことが要因だと考える。 ■老朽化した遊具を撤去するなどして施設整備を進めたり、園庭や室内での事故の起きないような見守りの体制を今以上に共通理解を図ったりして安全性を向上させていく。
	2 子育て支援室「どんぐりルーム」における地域子育て保護者支援の充実	(1) 「どんぐりルーム」の積極的開催	「どんぐりルーム」開催年間140日以上(感染症拡大時は除く)	A	①たくさんの未就学児とその保護者が「どんぐりルーム」に来室した。開催日数は143日だった。 ■次年度も年間計画をもとにできる限り開催していきたい。
		(2) 講演会やイベント等の計画的実施	講演会やリトミックなどを年間5回以上、お子さまの体重測定を年間10回以上、制作・お誕生会・運動会・クリスマス等のイベントを年間20回以上実施し、参加された保護者満足度が80%以上	A	①講話や親子活動(トイレトレーニング・おもちゃ作り、親子ベビトレヨガ、親子リトミック)が計5回、月1回の身体測定・制作・年3回の知育ヨガの実施を行い参加者の満足度も高かった。 ■今後も参加者のニーズに合ったイベントを企画していく。

# 1 学校（自己）評価 令和6年度 尚絅大学附属こども園 学校評価

令和6年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。  
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(□)
Ⅲ次世代保育者の育成	1尚絅高校生、幼児教育学科、学部学生のための教育実習の充実	(1)高校生、短大生、大学生の教育実習内容の改善	「実習のしおり」を改訂しつつ教育実習の充実に努め、実習生の「評価」の平均が3.5以上を達成	A	①短期大学部幼児教育学科・大学こども教育学部とこども園で話し合いを重ねながら「実習のしおり」は短期大学部・こども教育学部で改訂されており、実習の充実につなげている。実習生の実習に望む態度も良好だった。 ②「運動能力測定」を大学と連携して行ったり、幼児教育学科の授業の一環として絵本の読み聞かせやストレッチ体操などの活動を行ったりして、学生の教育・保育力向上に寄与することができた。 ■評価の平均は以下の通りであった。短期大学部2年生…3.2、1年生3.0、大学2年生…3.1
		(2)実習生を直接担当する保育者10名の業務負担軽減	実習生を直接担当する幼児棟担任10名の業務負担軽減を工夫し、実習期間6か月(5～7、10～12)の時間外勤務時間数の月平均15時間以内	A	①幼児等担任における実習期間6か月の時間外勤務時間数の月平均15時間以内の目標内の10.1時間(昨年度も同じ10.1時間)という結果だった。 ■さらに削減できるように、業務の見直しを図っていく。
	2大学・短期大学部と連携した研修の充実、研究の推進	(1)大学・短大と連携した研修の充実	大学・短大と連携した園内研修や、授業、講話等を年間5回以上実施	A	①実習連絡会などを含め、また公開シンポジウム・講話や園内研修など、13回実施した。
		(2)園外研修に主体的・積極的に参加できる環境づくり	園外研修中に園児の安全を守るため及び振替休日取得のためのフォロー体制づくり、補充保育者等の確保、園外研修の参加延べ人数前年比+10%	A	①安心して園外研修に出かけられるように事前に打ち合わせをして保育・教育内容を引き継いでいる。また計画的にフォロー体制づくりを行った。 ■教職員が平日の研修に参加するためのフォローの保育者の確保、また振替休日を取りやすくするためのフォローの保育者の確保が課題である。

# 1 学校（自己）評価

# 令和6年度 尚絅大学附属こども園 学校評価

令和6年度重点目標（事業計画）に対する学校（自己）評価 対象：教職員62名、回答数62名、回答率100%

評価は、教職員が「評価の観点」毎に、A:十分達成、B:概ね達成、C:やや不十分、D:不十分の4段階で評価し、割合(%)を算出した。  
それを、評価(A)と評価(B)を足した割合を算出し、85%以上がA、85%未満70%以上がB、70%未満50%以上がC、50%未満がDと評価した。

		評価の観点	具体的な目標・施策	評価	成果(丸数字)及び課題(□)
IV自然豊かな園庭で伸び伸びと遊ぶ園児の確保	1遊び環境を整備し、本園の魅力や園児達の姿の情報提供	(1)園児の遊び環境の整備	園児の年齢や興味・関心、季節等に合わせた魅力的な遊び環境の整備	A	①2週間ごとの環境会議を開き、学年間、学年内の情報交換をしながら計画を立て魅力的な遊びの環境を整えている。 ■遊びの環境の質は保ちながら会議の回数や時間を見直し、職員の負担軽減も進めていく。
		(2)尚絅学園HP「お知らせ欄」の充実	尚絅学園HP「お知らせ欄」で、本園の魅力や園児達の姿の情報提供を年間に150回以上。うち園の様子を当日に配信する件数100回以上。「お知らせ欄」以外における本園の良さが伝わる内容の工夫。	A	①HP「お知らせ欄」の情報提供回数は、237回提供した。(昨年比+53回)そのうち、当日配信は168回だった。 ②HPの「入園のご案内」欄について、在園保護者の感想などを掲載し、本園の良さをアピールした。 ■今後も、さらに魅力あるHPづくりに努めたい。またコドモンのドキュメンテーション機能を使って保護者対象に園児の様子を写真等でお知らせする機会を設けたい。
	2保護者のニーズに応じた園児を確保と収支均衡	(1)受入園児数や定員の見直し等による収支均衡の実現	年齢別・認定別の受入園児数の見直しと定員見直しのタイミングやそれに伴う問題点等の検討、および午前中保育やお弁当の日の削減、預かり保育の日数増等の実施を通しての1号認定園児数の前年比増加による収支均衡を実現。	A	①令和6年度の入園希望者の状況はほぼ前年度の希望者数と変わらず、収支の均衡がとれた。令和6年度スタート時は、258名だったが、最終的に284名になった。 ②保護者対象の園児募集のアンケートのみならず職員に対して業務改善のアンケートを取り、それをもとに職員で協議し園の運営改善を進めてきている。 ■町の出生率や3号希望者数、他園の状況などの把握に努める。また1号園児数が減少した場合のシミュレーションをしながら、収支均衡を図るために対策を立てていく。
		(2)教職員の心身の健康や安全面への配慮	教職員の勤務時間・休暇、サービス等の管理、心身の健康や安全面への配慮、ハラスメントの防止、法令順守、危機管理	A	①勤務時間の順守、休暇についての取得について、先を見通した動きができるように定期的に声かけしているところである。心身の健康や安全面の配慮については管理職が保育者と1~3回面談を行ったりアンケートを行ったりしている。 ■今後も職員の状況を多面的に捉えながら心身の健康や安全面に配慮をしていきたい。

## I 乳児期の保育のねらいである「3つの発達」に照らして、わが子はその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和7年2月  
 2 調査対象 乳児ひよこ組保護者9名、回答数9名、回答率100%  
 3 評価基準  
 (1) 1～3：評価の観点（3つの発達）  
 4.とても育っていると思う 3.だいたい育っていると思う 2.あまり育っていないと思う 1.まったく育っていないと思う  
 (2) 4～5：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価  
 4.とても満足している 3.だいたい満足している 2.あまり満足していない 1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（3つの発達）		4	3	2	1
1	身体的発達 （健やかに伸び伸びと育つ） <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の愛情豊かな受容のもとで、生理的・心理的欲求を満たし、心地よく生活をしはじめている <input type="checkbox"/> はう、立つ、歩くなど、十分に体を動かしてはじめている <input type="checkbox"/> 授乳や離乳をすすめていく中で、様々な食品に少しずつ慣れ食べることを楽しみはじめている <input type="checkbox"/> 生活のリズムに応じて、安全な環境の下で十分に午睡をしはじめている <input type="checkbox"/> おむつ交換や衣服の着脱などを通じて、清潔になることの心地よさを感じはじめている	88.9	11.1	0	0
2	社会的発達 （身近な人と気持ちが通じ合う） <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の応答的な触れ合いや言葉掛けによって、欲求が満たされ安定感をもって過ごしてはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等に体の動きや表情、発声、喃語等を優しく受け止めてもらいやり取りを楽しみはじめている <input type="checkbox"/> 自分の身近な人の存在に気付き、親しみの気持ちを表わしてはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の語り掛けや発声への応答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育ちはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等の温かく、受容的な関わりを通じて、自分を肯定する気持ちが芽生えはじめている	88.9	11.1	0	0
3	精神的発達 （身近なものに関わり、感性が育つ） <input type="checkbox"/> 身近な生活用具、玩具や絵本など、身の回りのものに対する興味や好奇心をもちはじめている <input type="checkbox"/> 様々なものに触れ、音、形、色、手触りなどに気付き、感覚の働きが豊かになりはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等と一緒に、様々な色彩や形のものや絵本などを見はじめている <input type="checkbox"/> 玩具や身の回りのものを、つまむ、つかむ、たたく、引っ張るなど手や指を使って遊びはじめている <input type="checkbox"/> 保護者や保育者等のあやし遊びに機嫌よく応じはじめている <input type="checkbox"/> 歌やリズムに合わせて手足や体を動かして楽しみはじめている	88.9	11.1	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
4	子育て支援事業への満足度 私は、尚綱こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	55.6	44.4	0	0
5	経営、教育・保育全般への満足度 私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	55.6	44.4	0	0

II 幼児教育のねらいである「5つの領域」に照らして、わが子がその方向に育っていると思われるか、他子育て支援等

- 1 調査時期 令和6年2月
- 2 調査対象 1歳りす組・2歳うさぎ組保護者30名、回答数23名、回答率76.7%
- 3 評価基準
  - (1) 1～5：評価の観点（5つの領域）
    - 4.とても育っていると思う      3.だいたい育っていると思う      2.あまり育っていないと思う      1.まったく育っていないと思う
  - (2) 6～7：本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価
    - 4.とても満足している      3.だいたい満足している      2.あまり満足していない      1.まったく満足していない

(1) 評価の観点（5つの領域）		4	3	2	1
1	健康 <input type="checkbox"/> 先生や友達との生活リズムに慣れはじめています <input type="checkbox"/> 体をいっぱい使って遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 多くの食品に慣れ、食事を楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 手を洗うなど清潔の習慣がしだいに身に付きはじめています <input type="checkbox"/> 衣類の着脱を自分でしようとしている <input type="checkbox"/> 自分から便器で排せつしようとしている	47.8	52.2	0	0
2	人間関係 <input type="checkbox"/> 先生や友達と一緒に心地よく暮らしはじめています <input type="checkbox"/> 先生や友達と適切な行動や言葉で関わろうとしている <input type="checkbox"/> 園生活にきまりがあることや、その大切さに気付きはじめています <input type="checkbox"/> みなし遊び（真似）やごっこ遊びを楽しもうとしている	56.5	39.1	4.4	0
3	環境 <input type="checkbox"/> いろいろな感覚を働かせて身近な環境に興味や関心、好奇心をもちはじめています <input type="checkbox"/> おもちゃ、絵本、園庭の遊具を使った遊びを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 身の回りにある物の形や色、大きさや量などの性質や仕組みに興味をもちはじめています <input type="checkbox"/> 自分の物と人の物との区別に、しだいに気付きはじめています <input type="checkbox"/> 自分が過ごすのにふさわしい場所や居場所を見つけて遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 身近な生き物に気付き、親しみをもちはじめています <input type="checkbox"/> 季節の行事などに興味や関心をもちはじめています	60.9	39.1	0	0
4	言葉 <input type="checkbox"/> 自分の欲求や気持ちを自分なりの言葉で伝えようとしている <input type="checkbox"/> 生活に必要な言葉を聞き分けはじめています <input type="checkbox"/> 日常の様々なあいさつをしたり応じたりしはじめています <input type="checkbox"/> 絵本や物語等に親しみをもち、まねをしたりして遊ぼうとしている <input type="checkbox"/> 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	78.3	21.7	0	0
5	表現 <input type="checkbox"/> 水、砂、土、紙、年度など様々な素材に触れて楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 音楽、リズムやそれに合わせた体の動きを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 生活の中で、様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどを感じて楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 歌を歌ったり、簡単な手遊びや全身を使う遊びを楽しもうとしている <input type="checkbox"/> 生活や遊びの中で、興味のあることや経験したことなどを自分なりに表現しようとしている	78.3	21.7	0	0
(2) 本園の子育て支援事業、及び経営や教育・保育等の経営全般への評価		4	3	2	1
6	子育て支援事業への満足度 私は、尚綱こども園で行われている「子育て支援事業」全般に満足している。	65.2	26.1	8.7	0
7	経営、教育・保育全般への満足度 私は、園の教育・保育のあり方、安全面、環境面（施設・遊具・教材・絵本等）、給食、情報提供等の経営全般に満足している。	69.6	26.1	4.3	0

## Ⅲ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10「10の姿」に照らして、わが子（園児）がその方向に育っていると思われるか？

- 1 調査時期 令和7年2月  
 2 調査対象 満3歳以上の園児の保護者245名、回答数200名、回答率81.6%。教職員62名、回答数62名、回答率100%  
 3 評価基準 4. とても育っていると思う 3. だいたい育っていると思う 2. あまり育っていないと思う 1. まったく育っていないと思う

評価の観点（10の姿）			保護者				教職員			
			4	3	2	1	4	3	2	1
1	健康な心と体	健康で安全な生活を意識しはじめ、十分に体を動かして喜んで遊ぶ方向に育っている	85.4	13.6	1.0	0.0	64.1	35.9	0.0	0.0
2	自立心	主体的・積極的に環境と関わり楽しみ、達成感や自信をもつ方向に育っている	68.8	29.6	1.5	0.0	43.8	54.7	1.6	0.0
3	協同性	言葉で友達と関わり、共通の目的に向かう活動を喜び合い成長する方向に育っている	67.3	31.2	1.5	0.0	39.1	60.9	0.0	0.0
4	道徳性・規範意識の芽生え	友達との関わりや生活の中で、善悪を判断し、相手の立場を理解する方向に育っている	46.2	52.3	1.5	0.0	32.8	64.1	3.1	0.0
5	社会生活との関わり	友達や身近な人々へ目を向け、人を大切にしたり人の役に立つことを喜びと感じたりする方向に育っている	59.8	40.2	0.0	0.0	40.6	59.4	0.0	0.0
6	思考力の芽生え	身近な環境に感じ・気づき・考え、予想したり、周りの友達との関わりの中で工夫したり考え直したりする方向に育っている	62.3	35.7	2.0	0.0	43.8	51.6	4.7	0.0
7	自然との関わり・生命尊重	身近な自然物に関心をもち楽しみ、感動したり命をかけたがえのないものと感じる方向に育っている	67.8	28.1	4.0	0.0	46.9	48.4	4.7	0.0
8	数量や図形、標識や文字などへの興味・感覚	遊びや生活の中の数量や図形、絵本等で出会う文字等に興味関心をもつ方向に育っている	69.2	26.3	4.5	0.0	25.0	65.6	9.4	0.0
9	言葉による伝え合い	経験したことを言葉で伝え合うとともに、相手の話をよく聞く方向に育っている	52.0	45.5	2.5	0.0	28.6	71.4	0.0	0.0
10	豊かな感性と表現	身近なことに感動したり、友達の表現に感じたり、自分で表現することを楽しむ方向に育っている	65.5	34.5	0.0	0.0	39.1	59.4	1.6	0.0

# 学校関係者評価に対する総括

	評価の観点 (文科省が教育・保育 要領で示したねらい)	評価	成果と課題
I	0歳児 「3つの発達」	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>0歳ひよこ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「3つの発達(身体的・社会的・精神的)」が、おおむね順調に発達していると思われています。</li> <li>社会的な発達については、「ゆるやかな担任制保育」を展開し、親の次に親しみをもつ保育者との気持ちがより通じ合うように工夫していることが功を奏していると自己評価しています。</li> <li>精神的発達においては、豊富な遊具や保育者自作遊具等に恵まれて順調な発達をしていると評価しています。</li> </ol>
II	1・2歳児 「5つの領域」	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>1歳りす組・2歳うさぎ組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て「5つの領域(健康、人間関係、環境、言葉、表現)」が、おおむね順調に発達していると思われています。</li> <li>保護者は、広い園庭や恵まれた施設、森や芝生広場等において健やかに伸び伸びと育つ環境を用意できていることを望ましい環境と評価しておられます。</li> <li>領域別の中では特に「言葉」「表現」「人間関係」の成長を評価しています。保育者達は、愛情をもって応答的・受容的な保育を実践しています。</li> </ol>
III	3・4・5歳児 「10の姿」	A	<ol style="list-style-type: none"> <li>満3歳ぱんだ組～年長組の保護者のみなさまは、わが子の姿を見て、認定こども園の教育・保育修了時の具体的な姿である「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10」に照らして、全項目とも95%を超えるみなさまが発達の段階に沿った順調な育ちをしていると思われています。</li> <li>内容別にみると、満3歳～年長組まで共通して「豊かな感性」「社会生活との関わり」で100%、「健康な心と体」「自立心」で98%と高く、園庭や近隣の森などでの遊びを通して健全に育っていることを実感してくださったことを感じます。</li> <li>教職員は、「健康な心と体」「自立心」「協同性」「社会生活との関わり」「豊かな感性と表現」「言葉による伝え合い」が高く98%を超え、その他の姿でも90%を超えていました。比較的低いものが「計量や図形、標識や文字等への興味・感覚」でした。</li> <li>保護者より教職員の方が全体的に低い評価です。これは、保育者の方が集団の中の現れる園児の姿を見ていることと、さらに良くなって欲しいという願いや自らの教育・保育を振り返り謙虚により良い姿を高い目標として据えているという使命感も含まれていると考えています。</li> <li>子育て支援事業や園の経営、教育・保育に対してはおおまかにご満足いただいています。</li> </ol>

評価は、保護者が「評価の観点」毎に、4:とても育っている、3:だいたい育っている、2:あまり育っていない、1:まったく育っていないの4段階で評価し、割合(%)を算出した。それを、評価4と評価3を足した割合を算出し、80%以上がA、80%未満70%以上がB、70%未満50%以上がCと評価した。

- 1 評価委員会開催日時 令和7年3月
- 2 調査対象 学校評価委員6名（祖父母代表、杉の子会（PTA）会長、学園関係者4名）回答数100%（※地域代表の方は辞退）
- 3 評価基準  
 評価の観点Ⅰ～Ⅴ： 4達成していると思う 3だいたい達成していると思う 2あまり達成していないと思う 1達成していないと思う  
 評価の観点1～6： 4充実していると思う 3だいたい充実していると思う 2あまり充実していないと思う 1充実していないと思う

評価の観点（Ⅰ～Ⅴは事業計画の項目、1～6は経営・管理面）	4	3	2	1
Ⅰ 教育・保育内容の改善と尚絅らしさの追求～豊かな自然環境を生かした特色ある園づくり～	100.0	0.0	0.0	0.0
Ⅱ 園児の確保～園児募集に関する方法や広報活動等の改善～	83.3	16.7	0.0	0.0
Ⅲ 子育て支援の充実～在園児保護者・地域保護者～	83.3	0.0	16.7	0.0
Ⅳ 教育・保育の指導力向上～園内研修の充実、園外研究会等への積極的参加、短期大学部との連携～	100.0	0.0	0.0	0.0
1 経営・管理面（安全面、園児確保、教員の確保、広報、コンプライアンス等）	100.0	0.0	0.0	0.0
2 労働面（やりがい、人間関係、広報、コンプライアンス等）	83.3	0.0	16.7	0.0
3 教員としてのライフステージに応じた指導力の向上	100.0	0.0	0.0	0.0
4 特別支援教育、人権教育、安全教育、食育等	100.0	0.0	0.0	0.0
5 大学・短大との連携、教育実習の充実	100.0	0.0	0.0	0.0
6 保護者(杉の子会)、地域、行政、療育施設、近隣小中学校等との連携	100.0	0.0	0.0	0.0

## 評価委員の意見・質問及びこども園からの回答

○日々の送迎時一担任が不在時「〇〇時まで先生と過ごそうね」と子どもが不安にならない声かけはすごくいいと思います。  
 ○新春のつどいー3クラスが時間差でグラウンドに行き、タコ揚げができ先生同士の連携がよくできていると思った。すぐに修理ができるようテープや糸を準備されていて、さすが!!と思いました。  
 ○11月保育参観一劇あそび、子どもを主体としたやり方は自然で良かった。役を途中で変わる!と子どもが言ってきても先生はすんわり受け入れ子どもがのびのび参加できているのは良かった。  
 我が子がお世話になった30年前の園舎、環境は変わっても、保育の内容、先生方の姿勢は同じで安心して孫を預けられます。今後ともよろしく願います。→尚絅こども園が大切にしていることを励ましていただき、有難く思います。

○様々な意見と向き合いながらより良い環境づくりに取り組まれていると感じました。今回のお話の中で、子供たちのプライバシーの確保の話題にとっても必要性を感じました。住宅地から丸見えなので、目隠しのフェンス作りはぜひお願いしたいです。  
 →プライバシーの保護に関して今年度のプール使用時までに対策を講じます。

○保護者アンケートの結果を見て、とてもよく園児一人ひとりを見守りながら保育されていると感じます。又、行事も多く教職員の労力は相当なものと思われませんが業務負担軽減やメンタルヘルスにも目を向けてあり素晴らしいと感じました。1号認定と2・3号認定の保護者では園に対する考え方の相違があると思うのでしっかりコミュニケーションを取って運営していくかたのめではないかと思いましたが、今後とも細やかな対応をお願いします。→尚絅こども園としての特色を大切に守りながらも時代の変化にも対応しながら、信頼される園づくりに努めてまいります。

○園の運営においては利用者の声を丁寧に拾い集め、迅速な対応がなされていると判断しました。利用者のニーズも多様なものとなっていますが、全て解決出来る方策はないと思えることから、今後とも細やかな対応をお願いします。→尚絅こども園としての特色を大切に守りながらも時代の変化にも対応しながら、信頼される園づくりに努めてまいります。

○保護者の意見をきちんと丁寧に受け、小さいことから改善に取り組んでおられる点も感心しました。保護者の意見も反映されてよりよい保育を目指している点も素晴らしいと思います。実習においても本学部の学生が大変お世話になりました。学生も先生方の指導の中で充実した時間になったこと、より保育者になりたいという意欲も出てきました。貴園を選ぶ理由として園の環境・設備とともに教育・保育の内容と職員、保育者の雰囲気も挙げられているのが素晴らしいと思いました。特に保育者や職員の方が子どもたちや保護者の方からの信頼が高いということも理解できました。個人的な感想ですが貴園に来ると安らぎと安心感を感じます。いやされず。→本園のキャッチフレーズ「愛情がいっぱい。豊かな保育」にご理解いただきありがとうございます。次世代保育者の育成についても本園の大きな使命として取り組んでいきます。

次年度も大学・短大と連携を深めていただけたら幸いです。教員の質向上にも貢献できたらと願っております。今後ともよろしく願います。→園児にとっても実習生との関わりがより良い成長につながっています。実習以外でも関わりも大変ありがたく思います。

学校評価の総括

- I 保護者も保育者も、わが子・園児は大まかに目指す方向に育っていると評価しています。
- II 保護者も保育者も、園経営はほぼ充実していると評価しています。
- III 保育者は使命感をもって教育・保育に当たっており、教師力を高める研修を望んでいます。
- IV 今後の課題として、以下のことが必要であると考えています。

- 1 自然豊かな環境を生かした教育・保育が尚絅らしさの原点です。「全体的な計画(教育課程)」をもとに、保育者全員が温かく愛情に満ちた教育・保育を通して健やかな園児の育成に努め、在園児保護者・地域子育て保護者から信頼される園にしていくことが重要だと考えます。
- 2 今でも自然豊かな環境で愛情豊かな教育・保育に取り組んでいることに多くの評価をいただいています。そのうえで少子化の時代の中で、保護者が入園させたいと思える魅力ある園の運営をさらに進めていく必要があります。「学校評価」「園児募集のアンケート」をもとに園運営の改善を図っていきます。その取り組みを行ったうえで、必要に応じて定員数の見直しなどを検討していきたいと考えます。
- 3 教職員の業務改善を進め、また教職員にとって心身ともに健康な状況で教育保育ができることが園児の健全な発育につながっていくと考えます。そのための教職員の業務改善に努めていきたいと考えます。
- 4 DX化の推進では、業務支援システム「コドモン」でのスクールバス運行や保護者との出欠確認やお便りのペーパーレス化、写真による怪我の状況報告などで利便性を高めてきました。今後は、教職員の業務改善、保護者への園のようすのお知らせ等のためにさらなる利活用を推進していきます。
- 5 在園児保護者と地域子育て保護者の支援に努めます。在園児保護者に対しては、児童虐待やDV事案等の対応に関係機関とも連携して取り組み、園児の命と成長を守ります。また、特別な支援を必要とする園児の保護者支援としては、療育施設や菊陽町との連携、子育て相談会等に努めます。さらに、教職員の研修を重ねるとともに、地域子育て保護者に対しては、「どんぐりルーム」のさらなる充実を図りながら支援に努めます。
- 6 本園の使命である教育実習では、幼児教育学科、こども教育学部の教職員の方々と緊密に連携しながら、学生にとって実り多い実習となるように努め、幼児教育に携わりたいという学生が増えていくよう支援していきます。
- 7 教職員のライフステージに応じた資質の向上のための園内研修・園外研修(大学・短大と連携した研修、キャリアアップ研修、幼児教育諸団体等の研修)を計画的、積極的に実施していきます。
- 8 欠員後募集しても、応募がない状況がありました。保育者の確保、働き方改革を含めた処遇改善をさらに推進する必要があると考えます。
- 9 施設設備等の安全性の向上に努めます。幼児棟は、2005年に建築してから20年目のメンテナンスが必要です。屋根や室内の壁の補修等を行なっていきます。